
やったね！鉄男君！

sunakuzira999

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やったね！鉄男君！

【Nコード】

N6676V

【作者名】

sunakuzira999

【あらすじ】

平凡な中学生の僕と鉄男君の出会い

（前書き）

まだ完成してません、すいません

ざわ・・・ざわ・・・、一人の少年の圧倒的存在感でざわめく教室
「あの人・・・このクラスにいたっけ？」 「入学式の時はいたよ
ね・・・？」 「あいつの目付き絶対何人か殺ってるだろ・・・」
学ランと目深に被った帽子、そこから放たれる鋭い眼光と時代に取り
残された番長のような格好

その少年の名は鉄男、入学式の一週間後には既に学校に来ていなか
ったが何故今になって？

夏休み直前に現れた鉄男君の前に同様を隠せないクラスメイト
恐らく皆困惑しているだろう、僕も何も知らなかったらそう思う
しかし僕は知っている、彼には普通の中学生の僕には想像も付かな
い出来事があったんだ・・・

あれは入学式が終わってすぐの事だった

僕が学校帰りに入学祝いの貰ったお小遣いで格ゲーを買いに行く途
中、不良集団に襲われる鉄男君を見た

あれは鉄男君もアカンでしょう・・・鉄男君は中学一年生なのに身
長が190cm以上、筋骨隆々とした体格だ

しかし相手は不良の巣窟として有名な北大往生中学の制服を着てい
る、その生徒なのだろう

それも・・・6人はいる！一人で米兵一人に相当すると噂の北大往
生中の生徒が6人も！

ちくしょう！少ししか話した事もないし入学式で隣の席だっただけの
鉄男君でもやられるのを見ているだけなんて！

僕には喧嘩なんて考えられない、そこら辺りの石ころより平凡な僕
には喧嘩なんて到底無理だ・・・

もう既に鉄男君の未来を神と仏に託した僕は陰に隠れて野次馬根性

を少し胸に秘め、傍観者を決め込む

「おいてめえが鉄男か、小学の時からてめえはウザイと思っていた」
「舐めたマネしやがつて、ここらは北大往生中のものだ、縄張りに
チヨツカイを出すなんていい度胸だ」

「俺はここら一帯を支配下に置こうと考えている、その霸道を邪魔
するならここで消えてもらうぞ！」

怖い・・・怖すぎるでしょう、なんという中学生なんでしょう

この町、ほのぼのの町を支配しようだなんて・・・

その手下と思われる男達も「ケケケ・・・さつさとやっちまいまし
よう」 「久しぶりに血が見てえなあ！！」

とか言ってるし・・・

「おい・・・俺とデュエルしろよ」

え・・・無理だよ鉄男君！相手は6人もいるんだよ！

心の中でそう僕は言ったが

「いい度胸だな！血の池地獄で沈んでる糞がつ！」

そう言い放ち、目潰し・・・いや！それはフェイクで目を防ごうと
しガラ空きになったお腹を狙っているぞ！

鉄男君はなんと目を防ごうとも、避けようともせず仁王立ちしている

「馬鹿が！ならばそのまま目を潰すだけだ！」

ひい！僕の純真な心にトラウマが植え付けられちゃう！ピュアホワ
イトが赤黒く染められる！

僕が目を閉じていると、「馬鹿な・・・ありえん」 「こいつは化
物か・・・」 と言っている手下たちの声が聞こえた

恐る恐る目を開ける、なんとそこには

「馬鹿な・・・目が潰れないだと・・・！」

「俺の目はゾウにでも踏まれなきゃ潰れねえよ、少なくともお前で
は潰せない」

凄い！凄いよ鉄男君！あの北大往生中の生徒を圧倒しているなんて！

「くそがああああ！調子に乗るなよおおおお！」

相手が大きく振りかぶる、しかし空を切り

「ふんっ！アパカツ！」

鉄男君のアップパーカットで不良の親分が吹き飛ばされた

「お、おやびん！・・・ダメだ、泡を吹いている」

「はやく いえへかえるんだな おまえにも かぞくがいるだろう」

ひい！おぼえてろよ！ そう捨て台詞を吐き、親分を引きずり逃げ出した

それにしても・・・虎を吹き飛ばしそうな凄い威力だった

「そこにいるのは分かっているぞ」

鉄男君がこちらを向いてそう言った、何故バレたし

観念して出ていく僕・・・それにしても・・・

「鉄男君強いね！でもなんでこんな事してるの？」

「こいつらみたいな連中がこの町を支配下に置こうとしている」

「そして勢力図を拡大させ、日本を混乱させようとしている」

「かつての大番長時代のように、目的は第二の大番長時代だ」

な、なんだってー！そんな事されたら困るぞ！そんなほのぼのの町が
ほのぼの出来なくなっちゃう！

「どうしよう！困るよ鉄男君！」

「大丈夫だ、この町は俺が守る」

鉄男君はそう言い、その場から去った

か、かつこいい・・・なんていうか帝王の風格があるよ！凄いよ！
只者じゃない！

僕は身震いが止まらなかった、鉄男君に付いていたら平凡な僕も
変われるかもしれない！

そう思った

鉄男君の圧倒的強さを前にして男として懂れた僕であったが

鉄男君は小学生の頃からこの町を守るため戦っていたこと、悲しい過去がある事を

この時の僕はまだ知らなかった・・・

次の日

僕は帰りに格ゲーを買うのを忘れてしまったが、もっと凄い生のバトルを見たので気分はいい

朝の憂鬱な登校時間でも顔はにやけている

凄いなあ・・・僕もあんな風になりたいなあ、それにしてもあのアップーカット凄かったなあ

試しにやってみる

「ふんっ！あばかつ！」

虎どころか猫でも吹き飛ばせないだろこれ

どうやってあんな力を身につけたんだろう、鉄男君は学校に行ってみたら聞いてみよう！僕はそう決意した

着いた、鉄男君はもう来ているみたいだ

「おはよう！鉄男君！」

鉄男君の席は近い、というか隣の席だ

担任は入学してすぐに席なんか変えても意味ないだろと言って席替えはしなかった

昨日の件もあるけど、これから一学期は隣の席なんだから仲良くしたいな

「うむ」

中学生らしくない返事だなあ、流石鉄男君だ！

「あいつ・・・死ぬ気か？」 「正気の沙汰じゃねえ・・・」

鉄男君が強面だからって勝手な事を言う

確かに鉄男君は白目を向いていたりするし眉毛もないけどそういう

のは偏見じゃないか

実際はもつと紳士だよ！外野はうるさいの・・・

などと昨日会ったばかりなのに理解者ぶった事を考えていると担任が来てHRが始まった

授業終わり！学生の一日の本番は授業じゃなくて放課後にアリ！

帰りのHRが終わりさっさと変える鉄男君を追いかけて

鉄男君にあのアップパーカートをどうやって覚えたか聞かなくちゃ僕も格ゲーみたいな技使いたいし

「鉄男君！あのアップパーカートはどうやって覚えたの！」

鉄男君が怪訝そうな、どうしてそんな事を聞くといい顔で

「戦いの中で覚えた」

そう答えた、やべえカッコイイ惚れる

鉄男の兄貴マジパネエっす

じゃなくて

「いや、コツとかあるよね！？普通あんなの出来ないって！」

声が大きくなってる、テンション上がってる

「練習だ」

あ、そうですか・・・

どうやら僕には一生出来そうもない、出来る気がしない

でも戦いの中で覚えたって・・・

「いつも戦ってるの？あのチンピラ達と、他に戦う人はいないの？」

鉄男君みたいなのがいるとは思えないけど一人じゃ似が思いじゃないか

「いつも戦っている、俺一人だ」

「しかし負ける訳にはいかない」

なんという中学生、それもまだ一年生だと言うのに人知れず戦ってるなんて・・・

強面だからって誤解されてるけど、きっと本当の事を伝えたらクラスの皆の誤解も解けるよ！

そしたらきつと鉄男君だつて・・・

「この事は誰にも言うな、絶対にだ」

硬い声だ、よつぽど誰にも知られたくないんだろう、でも

「え・・・どして？」

いいじゃないか、入学式に來ただけで道を避けられたり

「これで勘弁してください！」と焼きそばパンを差し出されたりする今よりはずっといいはず

誤解されたままなんて、やっぱり悲しいじゃないか

鉄男君が口を開き

「いいか、誰にも話すな、分かったな」

そう言い歩き出した・・・

でもあの方向は確か

「あつちは北大往生中だよね、今から殴りこみに行くの？」

「奴らは報復に來るだろう、そうなると町に迷惑がかかる、先に叩く」

そこいらのチンピラと違ってちゃんと考えてるんだな・・・とかチンピラっていうよりも武道の達人という感じ

なんとなくだけど空手とかじゃなくてムエタイとかやってそう

そんなこんなで

ここか・・・ここが北大往生中、全国の不良達の猛者が集まる中学かつて大番町時代があつた時、ここの番長が世界を牛耳る大番町だった

大番長時代は時代の流れの中で終焉を迎えたけど・・・

ここでまたかつての古き良き番長時代を取り戻そう、その思いを持つ全国の不良達が集まつてるのか
なんだかとても胸が熱くなるな

「行くぞ」

やだん、頼もしいカツコイイ、僕は見てるだけだけど

校舎は特に取り立てて特徴はない・・・強いて言うなら夜露死苦とかスプレーで落書きしてあったりするぐらい

玄關に入ってみる、誰か人がいる様子もない、嫌な予感がするぞ階段の方に行ってみる、ここにも人がいない

これは・・・まさか！

「かかったな！お前達が来るなんてお見通しだぜ！ばああああああかがあああつ！」

上の方から叫び声が聞こえ、そのすぐ後に二階・・・いや、三階ぐらいのところから飛び降りてきた

「昨日の恨みだあああああああつ！くたばれええくそがああつ！！」

「ヒヤーツ！」 「キヒー！」 「アチヨオオオオオオ！」と部下達の声もしている

慌てて鉄男君の方を見る、すると床を思い切り蹴り、跳躍、そして「アパカツ！！」

そう叫ぶと、部下と親玉もろとも消し飛ばしそのまま三階まで跳躍していった

（後書き）

小説初挑戦です1時間も時間かからなかったです、すみません
難しい・・・考えたらなかなか書けないし考えなかったら変になる
し

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6676v/>

やったね！鉄男君！

2011年10月8日23時35分発行